

豊かな生命あふれる草原を

秋吉台草原ふれあいプロジェクト 平成26年度(2014)報告書概要版

西日本最大級のカルスト台地・秋吉台では、毎年の山焼きで広大な草原が維持されており、山焼きの作業や草原の風景そのものが観光資源となっています。また、草を畑や牛の餌に利用する慣習も美東町の集落を中心に残っていて、古くから草原を利用してきた地元の文化を知ることができます。さらに、全国的にも数が少なくなった草原特有の動植物のすみかとしても重要です。

本プロジェクトでは、秋吉台の草原景観とそこにすむ生きものを守り、草原と人が関わってきた文化を次世代につなぐことを目的に、草刈り作業や学校の草原学習に取り組んでいます。

2014年度は以下の4つのプロジェクトと小学生の草原学習に取り組みました。



お花畑プロジェクト

ここでの草刈り作業は7月中旬に行います。刈った草はすべて持ち出し、地元の畑に使ってもらいます。草刈り場所を毎年替えるため、3年に1度の草刈り頻度になっていますが、草を刈った年の秋は刈らなかった年よりも明らかに多くの花が咲きました。

秋の観察会では、昨年、一昨年の草刈り跡地と、今年の草刈り跡地を比較し、草刈りをした年は秋の花が増えることを確認しました。その後、地元の人から草を使った遊びを教えてもらったり、特産品の梨を賞味したり、草原で昼寝やおカリナ鑑賞とゆっくりとした時間を持ちました。

7月の草刈り作業



高校生のお花畑プロジェクト

2012年から、県内の高校生が草刈り体験学習としてお花畑プロジェクトに取り組んでくれています。秋吉台青少年自然の家が窓口です。

本年度は、大津緑洋高校日置校舎のみなさんが草丈の高い場所で草刈りをされました。「草原学習のしおり」で秋吉台の草原についての説明を聞いた後、自分たちで刈り払い機も使い、手際よく草をまとめていきました。

その場所では秋にはオミナエシがたくさん咲き、カワラナデシコ、オトコエシ、ミシマサイコといった植物も新たに花をつけました。この調査結果は学校の方に報告しました。

また、美祢市内の青嶺高校も草刈り体験学習を予定していましたが、悪天候のため中止となりました。



来年度は無事実施できることを願っています。

高校生の草刈り跡でみられた花



草原の復元プロジェクト

1991年時点ではクリ園であり、その後放棄された長者ヶ森東側の草原には、2008年のヤブ刈り作業直後から、耕作放棄地と同様セイタカアワダチソウを中心とする植生が成立しています。

この場所は多くの人の訪れる長者ヶ森の周辺であるため、景観整備の意味もこめて2008年から草刈り作業を行ってきました。2010年からは年2回の



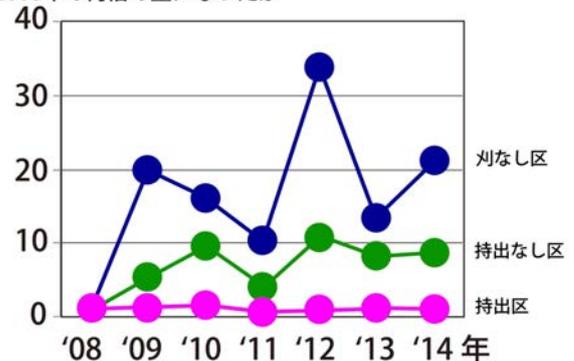
作業を行っています。

草刈り続け、刈り草を持ち出した場所ではセイタカアワダチソウを中心とする外来植物は増えていません。逆に、ネザサ、ススキといった草原の植物が少しずつ増えてきています。特にネザサの面積は年々拡大し、昨年初めて出現したチガヤがさらに増えていました。

また、山口大学農学部による土壌分析の結果、外来植物が繁茂する原因となっている土壌中の栄養分が、草刈り作業で草を持ち出すために減ってきていることがわかりました。草原の環境にはまだほど遠い状況ですが、草刈り作業を続けることで、草原の

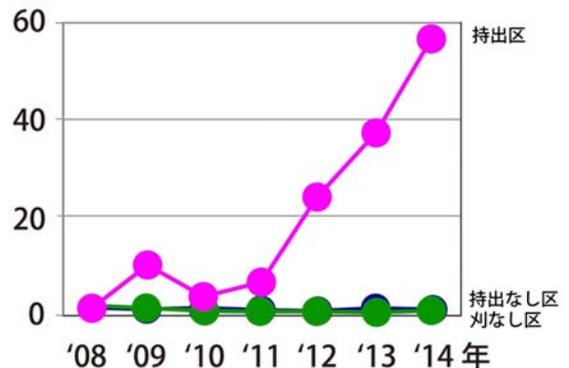
セイタカアワダチソウの量の変化

2008年の何倍の量になったか



ネザサ・ススキ・チガヤの量の変化

2008年の何倍の量になったか



植物にとって良い土壌環境を取り戻すことが可能だということがわかりました。今後も地道に作業を続けていきます。



なります。高い草に覆われると地面近くは暗くなり、生きものがどんどん少なくなってきます。また、草丈が高い分草の量も増え、次の山焼きの時に大きな火が上がって危険になります。そこで、数年前までは行政を中心に燃え残りの整備が行われていました。

現在は行政による燃え残り整備は行われません。本プロジェクトでは、長者ヶ森の東側と北西側のドリーネ、クヌギの多い斜面で燃え残り整備を行い、景観の整備につとめています。

火入れは消防署の許可を取って行いました。作業者は一般の見学者と区別するため、赤いキャップをかぶりました。燃え残った草を刈り倒してから丁寧に火を着けていき、枯れ草が立っていた場所もきれいに整備ができました。

山口大学農学部（藤間研究室）による土壌の調査



まとめ

- 刈りあり放置区 ⇨ 刈りなし区に比べ土壌環境に変化は見られなかった
 - 刈りあり持出区 ⇨ 刈りあり放置区に比べ土壌環境は**貧栄養化の傾向が見られた**
- ↓
- 刈った草を持ち出すことにより外来植物が繁茂しにくい土壌環境をつくることが可能であると分かった



追加の山焼き (山焼き応援プロジェクト)

早春2月に行われる山焼きでは、風向きや地形によって燃え残る場所が出てきます。燃え残った場所は有機物がたまってくるため、草丈がだんだん高く



小学生の草原学習

将来を担う子どもたちにもっと秋吉台のことを知ってもらおうと、2012年度から地元の小学生の草原学習を受け入れています。年間をとおしての自然観察が中心です。

今年は2校の学習がありました。子どもたちは、講師の話を中心に聞き、虫や花にを観察しました。また、秋吉小学校は草刈り体験学習にも取り組み、秋のお花畑づくりに挑戦しました。



秋吉台草原ふれあいプロジェクト
<http://akiyoshidai.org/>

事務局：秋吉台エコ・ミュージアム
〒754-0302 山口県美祢市美東町赤
Tel&Fax:08396-2-2622
E-mail: staff@akiyoshidai.org